

令和6年度

全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取組について

小城市立牛津小学校

今年の4月、6年生対象に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、その向上について対応策をまとめました。今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思います。ただ、本調査は、小学校第6学年と中学校第3学年と限られた学年が対象であり、教科は国語科、算数科・数学科の二教科です。したがって、この調査によって測定できるのは、児童の「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」を表したものに過ぎません。以下に分析結果の概要についてお知らせいたしますが、そのことをご了解の上、ご覧ください。

本校では、国語科、算数科以外の教科も含め、総合的に児童の学力向上を目指し、教育指導の充実や学習状況の改善に努めていきます。

■調査期日

令和6年4月18日（木）

■調査の対象学年

小学校6年生児童

■調査の内容

（1）教科に関する調査

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等に関わる内容。

（2）生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
（例）国語科、算数科への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など

◆令和6年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 国語科 》

全体の概要

- ・「知識・技能」は全国・県平均とほぼ同じであったが、「思考・判断・表現」は県平均とは、ほぼ同じで全国平均はやや下回った。
- ・「知識・技能」の中の「我が国の言語文化に関する事項」が、全国・県平均を大きく下回っている。
- ・「書くこと」は全国・県平均とほぼ同じであったが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、県平均をやや下回り、全国平均からは大きく下回る結果となっている。

観 点	【分析結果・自校の課題】	【学校での具体的取り組み】
知識・技能	○文章の中の主語・述語の関係を捉えることができる。低学年からの学習が積み上がっていることを感じる。 ●長文のテスト問題を時間内に解くことに慣れていないため時間配分が難しく、最後の問題まで解くことができない児童が多く見られた。	・複数の情報から、要点をまとめる練習を意識して指導していきたい。また、冊子になっているテストは通常のテストと違い問題数の把握、時間配分が必須であることを繰り返し指導していきたい。事前に過去問題を解かせることで、児童にイメージをもたせる。 ・選択肢を先に見る傾向があるため、問題→選択肢の流れを守るよう指導していきたい。
思考・判断・表現	○取材メモをもとにして内容を捉え、条件に応じて「たてわり遊びのよさ」について事実と感想、意見とを区別して記述することができた。無解答も少なく、自分の意見を書こうとする意欲が見られた。 ○日常の漢字練習の取組みが、実を結んでいる。 ●文章を読み取り、複数の情報を取捨選択することに困難を感じている児童が多い。授業では事実と感想を区別して伝えるよう指導しているため、児童が混乱したことも想定できる。	・条件作文や、要点をまとめたり資料を用いて説明したりする活動を意図的に設定することで条件に合うように書く力を養う。 ・話す・聞くの学習ではメモを1つのツールとして使い捨てることが多いが、メモに注目して内容の整理・分類の仕方や、何を書くべきなのか、書いているかの評価を明確に示すことを意識して指導する。 ・授業外でも「ことばのきまり」で繰り返し学習、指導を続けていきたい。

【ご家庭では】

- 音読をしっかりと聞いてあげてください。毎日読むことでずらずらと読めるようになり、読解力もあがってきます。話の感想や内容について話し合ったり、言葉の意味や使い方を子どもさんに教えていただいたりして、親子で触れ合いながら学んでほしいと思います。
- 子どもさんが書いた作文や漢字のノート等に目を通してください。書いてある内容について話したり、たくさん褒めたり、ご家庭で話題にし、関心を持っていることを伝えてください。
- 親子での読書や読み聞かせをする時間を大切にしてください。市立図書館の利用や本屋に時々行かれることもお勧めします。

◆令和6年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

全体の概要

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、全国平均・県平均とほぼ同じであった。
- ・領域で見ると、「図形」は、県平均を大きく上回り、「数と計算」「変化と関係」は県平均とほぼ同じで、「データの活用」だけが、県平均をやや下回った。
- ・無回答率が少なく、最後まで集中して取り組めている。
- ・記述式の正答率が全国平均・県平均ともにやや下回っている。

観 点	【分析結果・自校の課題】	【学校での具体的取り組み】
知識・技能	○除数が10分の1になった時の商の大きさについて正しいものを選ぶことは全国平均を大きく上回っている。 ○円グラフの特徴を理解し割合を読み取ることが全国平均を大きく上回っている。 ●簡単な2次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる問題では、県平均より大きく下回っている。	・ノートやプリント、家庭学習など、日々の指導の中で個々の課題を早期に見つけ、個別の支援を行う。 ・データを読み取る問題では、グラフの見方や単位について確認させ、いろいろなデータの問題に取り組ませる。丁寧・正確に読み取る力を身につけさせる指導を継続していく。 ・タブレットを活用し、繰り返し学習することで習熟を図ったり、発展的な問題にチャレンジしたりして活用力を付けていく。
思考・判断・表現	○球の直径の長さで立方体の1辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式の表すことができるかどうかを見る問題では全国平均を大きく上回っている。 ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題では県平均より大きく下回っている。	・式の意味を考えさせたり、式に合うような問題を作らせたり児童自身がより考える場面を増やす。 ・グラフから読み取ったことを記述して説明できる力を身につけさせる指導が必要である。 ・授業の中で、問題解決の過程や結果を、具体物、図、数、式などを用いて表現し伝え合う活動を定着させる。

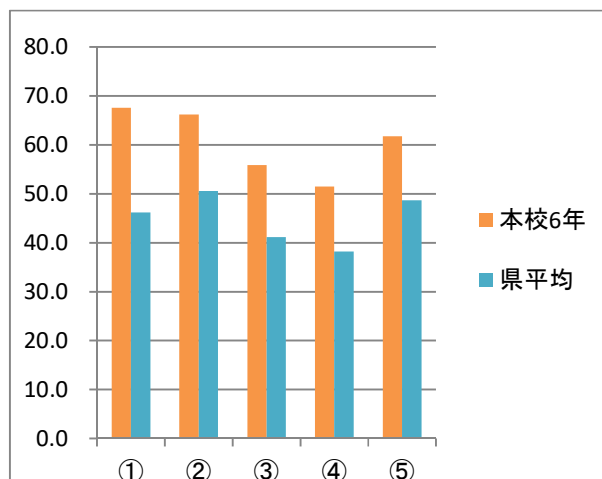
【ご家庭では】

- ドリルやプリント類に目を通していただき、たくさんの称賛や励ましをお願いします。また、間違えた問題や苦手な問題等を自学で挑戦するよう声掛けしてみてください。
- 身の回りには、算数科で学んだことを生かす場面がたくさんあります。買い物では計算、折り紙では分数、お菓子の箱では立体などです。生活の中での必要性や便利さを生かす場を積極的につくっていただきたいと思います。

◆生活習慣や学習習慣に関する調査「質問紙(意識)調査」から

【数値が特に高かった項目】（県との比較で特に上回った項目の順番で示しています）

	調 査 の 項 目
①	(12) 人が困っているときは、進んで助けていますか。→「当てはまる」
②	(58) 理科の勉強は好きですか。→「当てはまる」
③	(63) 英語の授業の内容はよく分かりますか。→「当てはまる」
④	(61) 英語の勉強は好きですか。→「当てはまる」
⑤	(55) 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。→「当てはまる」



【分析と取り組み】

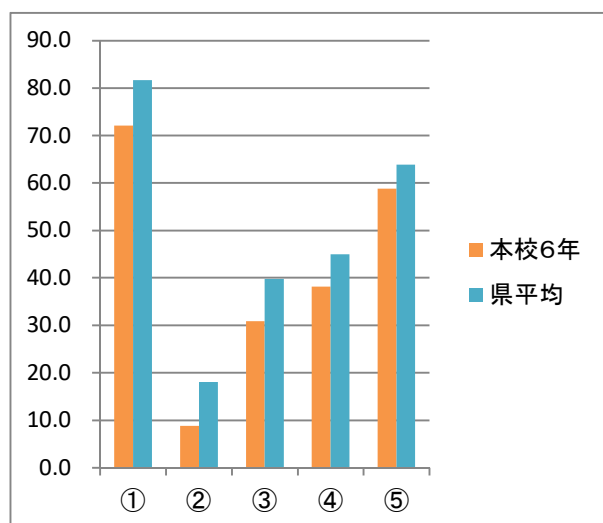
○本校では、今年度から理科専科の教員が配置されました。そのことによって、教材研究や実験の準備などの充実が図れたことが「理科が好き」が増えたことに影響していると思われます。

○外国語(英語)も専科教員とALTが専門的に授業を行っています。授業の中で、ICTを活用して学習のレベルを自分で選択できるような取り組みを行ったことが、内容の理解や外国語への関心を高める結果となったと考えます。

○算数の授業でも、専科教員が配置されたことで、分からないときにすぐ質問しやすいため、問題を解決するまで粘り強く取り組む児童が多く、学習に対して意欲が高いことが分かります。

【数値が特に低かった項目】（県との比較で特に下回った項目の順番で示しています）

	調 査 の 項 目
①	(1) 朝食を毎日食べていますか。→「している」
②	(5) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。→「4時間以上」
③	(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。→「している」
④	(26) 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。→「家で勉強や読書をしている」
⑤	(18) 友達関係に満足していますか。→「当てはまる」



【分析と取り組み】

○起きる時間は規則的なところが多いのですが「朝食を毎日食べている」児童が県平均より大きく下回っています。就寝時間が規則的ではないことも気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことを、児童や家庭に伝えていく必要があります。

○平日に4時間以上をする児童は、県平均より大きく下回っていました。各家庭でゲームや携帯を使用するときのルールを決めてもらっていることが、ある程度定着していることがうかがえます。

○放課後や週末に「家で勉強や読書をしている」児童が県平均より大きく下回っています。進んで自主学習をしたくなるような手立てや家庭の協力を得られるような工夫を呼びかけていくようにします。